

研究報告

A大学附属病院看護師による専門看護師へのコンサルテーションの実態とニーズ — 内科系病棟と外科系病棟での比較 —

村中沙織¹⁾, 春名純平¹⁾, 牧野夏子²⁾, 小野聡子¹⁾, 横山佳世¹⁾, 佐藤さやか¹⁾, 佐藤智美³⁾, 煤賀隆宏¹⁾

¹⁾ 札幌医科大学附属病院

²⁾ 札幌医科大学保健医療学部

³⁾ 前 札幌医科大学保健医療学部

目的は、A大学附属病院看護師による専門看護師（以下CNS）への「コンサルテーションの実態」と「ニーズ」を内科系病棟と外科系病棟で比較しその特徴を明らかにすることである。内科系と外科系病棟の看護師に対し、CNSへのコンサルテーションの実態とニーズについて独自に作成した質問紙調査を行った。回答者数は383名（回収率72.7%）であった。分析は記述統計の後、フィッシャーの正確確率検定で内科系と外科系病棟の差を比較した。CNSへのコンサルテーションの実態は、外科系病棟看護師の方がCNSへの相談経験が多く、内科系病棟看護師は外科系病棟看護師に比べてCNSの役割の理解不足と相談へのためらいが多かった。CNSへのニーズは、外科系病棟看護師の方が「チーム医療における医療者間の調整」が多く、回答者全体の倫理調整への期待は約4割であった。今後はより質の高い看護提供に寄与するため、医療チームの調整や倫理調整に関する活動の検討が必要と考える。

キーワード：看護師，専門看護師，コンサルテーション，活用，役割遂行

The needs of nurses for interventions by certified nurse specialists, and the consultations that they provide — a comparison of medical and surgical wards at University Hospital A

Saori MURANAKA¹⁾, Junpei HARUNA¹⁾, Natsuko MAKINO²⁾, Satoko ONO¹⁾, Kayo YOKOYAMA¹⁾,
Sayaka SATO¹⁾, Tomomi SATO³⁾, Takahiro SUSUGA¹⁾

¹⁾ Sapporo Medical University Hospital

²⁾ Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

³⁾ Ex Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

This study aimed to compare the medical and surgical wards at University Hospital A, regarding the needs of nurses for interventions by Certified Nurse Specialists (CNSs) and the actual state of consultations provided by CNSs, and to elucidate the characteristics of each ward. A questionnaire survey was created and administered to medical and surgical ward nurses, covering their needs for intervention by CNSs and the actual state of consultation provided by CNSs. There were 383 respondents (response rate: 72.7%). Analysis consisted of statistical description, followed by comparison of differences in responses between the medical and surgical wards using the Fisher's exact test. Regarding consultation, surgical ward nurses had more experience consulting CNSs, and medical ward nurses had less complete understanding of the role of CNSs, and more hesitation toward consultation compared to surgical ward nurses. Surgical ward nurses reported relatively high needs for "coordination among medical staff in the context of team-based care," from CNSs, and approximately 40% of all respondents reported expectations for solutions to ethical issues. In order to contribute to providing higher-quality nursing in the future, further research is needed into the activities of CNSs, including the coordination of medical staff and finding solutions to ethical issues.

Key words : nurses, certified nurse specialists, consultation, activity, role performance

Sapporo J. Health Sci. 7:45-49(2018)
DOI:10.15114/sjhs.7.45

I. はじめに

1996年に日本看護協会が認定する専門看護師制度が発足し、2016年12月現在、約1,900名の専門看護師（Certified Nurse Specialist以下、CNS）が全国で活動している¹⁾。CNSは、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究の6つの役割を持ち²⁾、特定の専門看護分野の知識・技術を用いて組織全体や施設外への活動を行うことにより看護の質の向上に努めることが求められている。

A大学附属病院（以下A病院）は特定機能病院であり、2014年より病院および所属する大学機関のCNSが専門看護師会を立ち上げ、「がん看護」「精神看護」「小児看護」「急性・重症患者看護」領域の7名が活動している。各CNSは医療連携福祉センター、外来、NICU、中央部門などに勤務している。活動当初よりCNS間で連携し院内におけるCNSの活動の周知と医療職者のニーズの把握に努めCNS役割を実行してきたが、看護職員に対するCNSの活動評価は実施していない。先行研究では、高度先進医療を提供する病院における認定看護師（Certified Nurse以下、CN）・CNSに対する看護師のニーズを把握した報告³⁾や、CNSとCNの役割遂行に関する報告⁴⁾がなされているが診療科毎のニーズの特徴などは明らかになっていない。

そこで、今回CNSの領域を問わずCNSの活用が可能と考えるA病院の内科系病棟と外科系病棟の看護師のCNSへのコンサルテーションの実態とニーズの特徴を明らかにし、A病院の施設特性と看護師のニーズに即した具体的な活動内容を検討したいと考えた。

II. 研究目的

本研究の目的は、今後のCNSの活動内容を検討する基礎資料としてA病院に勤務する看護師のCNSへのコンサルテーションの実態とニーズを内科系病棟と外科系病棟で比較しその特徴を明らかにすることである。

III. 用語の定義

内科系病棟：消化器、循環器・腎臓・代謝内分泌、呼吸器・アレルギー、腫瘍・血液内科、リハビリテーション・神経内科、放射線科病棟を示す

外科系病棟：消化器・乳腺・甲状腺外科、心臓血管・呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚形成外科、泌尿器科・麻酔科、歯科口腔外科病棟を示す

コンサルテーション：A病院の内科系または外科系病棟の看護師が解決困難と感じる問題について直接的または間接的にCNSの支援を受けること

ニーズ：A病院の内科系または外科系病棟の看護師が解決

困難と感じる問題についてCNSの介入を求めること

IV. 研究方法

1. 研究デザイン

自記式調査票を用いた横断研究

2. 研究対象

対象は、A病院に勤務する看護師791名のうち、看護師長・副師長を含めた内科系病棟に勤務する看護師203名と外科系病棟に勤務する看護師324名の計527名である。今回はCNSの領域を問わずCNSの活用が可能と考える内科系、外科系病棟の看護師を対象とし、それ以外の病棟と中央部門、外来に勤務する看護師は対象から除外した。なお、調査施設の特性として、内科系病棟にはCNが5名、外科系病棟にはCNが4名配置されており、当該部署にCNSは配置されていない。

3. 調査期間

平成29年1月

4. 調査方法

A病院の看護管理責任者に研究協力依頼文書と質問紙を用いて説明し承諾を得た後、対象病棟の看護師長に対象者への研究協力依頼書と質問紙の配布を依頼した。質問紙は個別に配布し、回収は各病棟に設置した回収箱に厳封のうえ投函する留め置き法とした。

5. 調査内容

質問紙は無記名とし、奥ら³⁾の文献を参考に独自に作成した。調査項目は、①基本的属性：年齢、性別、看護師経験年数、②CNSへのコンサルテーションの実態：CNSの役割の認知、CNSへ相談や助言を求めた経験の有無、CNSに相談する際の妨げ、③CNSへのニーズ：CNSに依頼や相談したい内容もしくはCNSの介入を期待したい内容、とした。

6. データ分析方法

データ分析には、SPSS Statistics 22.0を用い、①記述統計を行ってデータを概観、②内科系病棟に勤務する看護師と外科系病棟に勤務する看護師のCNSへのコンサルテーションの実態、ニーズについてFisherの正確確率検定を用いて比較、有意水準は5%とした。

V. 倫理的配慮

本研究は、研究者の所属する看護部倫理審査委員会の承認（No.16-59）を受けて実施した。調査依頼時にA病院の看護管理責任者と対象看護師長、対象者に対し、当該研究の趣旨や目的、参加と撤回に対する自由意志と匿名性の保

証, データの取り扱い, 成果の公表等について文書を用いて説明を行い, 質問紙の回収をもって研究協力同意とした。

VI. 結 果

1. 対象者の概要

質問紙の回収率は72.7% (n = 383) で, 有効回答率は100.0%であった。対象者は, 内科系病棟に勤務する看護師140名 (男性6名, 女性134名) と外科系病棟に勤務する看護師243名 (男性16名, 女性223名, 無回答4名) であった。対象全体の看護師経験年数の平均値は14.9 ± 11.5年であり内科系病棟に勤務する看護師と外科系病棟に勤務する看護師の看護師経験年数に差異は認めなかった。

2. CNSへのコンサルテーションの実態

1) CNSの役割の認知 (表 1)

CNSの6つの役割の認知度を所属部署 (内科系・外科系) 別に比較した結果, 「研究」役割では内科系病棟で「知らない」と回答した者が多かった ($p < .05$)。

2) CNSへ相談や助言を求めた経験

CNSに対して個人および自部署で相談や助言を求めた経験について, 全体において「経験がある」と回答した者は58.5%であった。相談や助言の経験を所属部署 (内科系・外科系) 別に比較した結果, 「経験がある」と回答した者は内科系病棟で49.3%, 外科系病棟で63.8%であり, 外科系病棟において有意に多かった ($p < .01$)。

3) CNSに相談する際の妨げ (表 2)

CNSに相談する際の妨げを所属部署 (内科系・外科系) 別に比較した結果, 内科系病棟で「CNSが何をしてくれるのかわからない」「自部署以外の人に相談してよいかためらいがある」と回答した者が多く, 外科系病棟で「妨げになるものはない」と回答した者が多かった ($p < .05$)。

3. CNSへのニーズ (表 3)

CNSへのニーズを所属部署 (内科系・外科系) 別にCNSへの期待を比較した結果, 外科系病棟で「チーム医療における医療者間の調整」と回答した者が多かった ($p < .05$)。

VII. 考 察

今回対象とした内科系・外科系病棟間の看護師経験年数の差異は認めず, 内科系・外科系病棟の双方にCNSは所属していない状況であったことから, 前提条件の差はないと考える。

1. CNSへのコンサルテーションの実態について

CNSへのコンサルテーションについての比較では, 外科系病棟で相談や助言を求めた経験が多かった。この背景と

して, A病院の外科系病棟では併存疾患のあるがん患者の周術期管理が多く, 患者ケアにはCNSが所属する多職種専門チームの介入を要することから, CNSに相談しやすい環境が影響していたのではないかと考える。内科系病棟ではCNSに相談する妨げとして「CNSが何をしてくれるのかわからない」や「自部署以外の人に相談するためらい」を挙げる者が有意に多かった。内科系病棟では専門性の高い診療科が独立して存在しており, 各診療科の専門性に応じたCNが配置されている。そのため, 看護援助に関する問題は主治医である専門医と病棟配属のCNなどへの相談により自科で解決していることが推察された。黒田⁵⁾は, 患者への直接ケアについてCNの役割は本来の役割以上に拡大していることを報告している。CNSの介入は間接的な支援も含まれていることから, CNとCNSの活動や役割の区分がつきにくくCNSの役割がみえにくかったのではないかと考える。また, CNSへの相談の妨げでは相談内容の迷いが多く, 相談へのためらいやCNSを選定できないなどが上位を占めていたことから, 在籍するCNSの領域と役割・活動内容の理解が進んでいない現状が伺われた。山田⁶⁾はCNS側からの役割遂行上の困難について「看護部内他部署へのコンサルテーション」「組織横断的な活動」を挙げており, A病院においてもこれらの活動展開については各CNSの活動期間や内容に差がある。福地本ら⁷⁾は, 「特定機能病院では, 複雑性の高い患者対応が求められており, 複数のCNS-CNの活動成果は組織としての質の担保に貢献するものである」と述べており, 今後は領域間でのCNSの連携を強化し内科系病棟での活用も推進されるような活動を検討する必要があると考える。

以上の現状をふまえ, 今後はCNSの存在認知とCNSの役割と活動の周知, 相談しやすいシステム作りを行う必要がある。

2. CNSへのニーズについて

CNSへの期待について, 外科系病棟において「チーム医療における医療者間の調整」のニーズが高かった背景として, 外科系病棟では栄養サポートチームをはじめとする周術期管理に関連した多職種専門チームの介入が行われており, チーム医療が展開されやすい環境であることが考えられる。こうした多職種チームと部署間の連携は質の高い医療を提供するためには必須であることから, CNSに対する「調整」役割への期待が高いことが推察された。一方, 内科系病棟, 外科系病棟の看護師におけるCNSの役割認知度は双方とも「倫理調整」が低く, 「倫理的問題の調整」への期待も低かった。「倫理調整」として行っているCNSの業務について, 黒田⁵⁾は特にがんやクリティカル領域での「事例検討」や「倫理的課題の抽出」を挙げているが, CNSへのコンサルテーションまでには至っていないことが明らかとなった。奥らは, 「看護ケアの質の向上に貢献するためには, 施設の潜在的ニーズをとらえ, 活動内容を明

表 1 専門看護師の役割の認知

| カテゴリー | n | 実践 | | 調整 | | 相談 | | 倫理調整 | | 教育 | | 研究 | | | | | | | |
|-------|-----|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|------|------|------|------|------|------|
| | | 知っている (%) | 知らない (%) | | | | | | |
| 全体 | 377 | 41.1 | 49.6 | 9.3 | 28.1 | 53.8 | 18.0 | 28.4 | 49.1 | 22.5 | 23.1 | 46.9 | 29.7 | 38.2 | 47.5 | 14.3 | 37.1 | 46.7 | 16.2 |
| 内科系病棟 | 138 | 41.3 | 46.4 | 12.3 | 25.4 | 52.2 | 22.5 | 23.3 | 49.3 | 27.5 | 20.3 | 45.7 | 34.1 | 37.0 | 43.5 | 19.6 | 36.2 | 40.6 | 23.2 |
| 外科系病棟 | 239 | 41.0 | 51.5 | 7.5 | 29.7 | 54.8 | 15.5 | 31.4 | 49.0 | 19.7 | 24.7 | 47.9 | 27.2 | 38.9 | 49.8 | 11.3 | 37.7 | 50.2 | 12.1 |

Fisherの正確率検定を用いた: *p<.05 **p<.01 ***p<.001

表 2 専門看護師に相談する際の妨げ

| カテゴリー | n | 相談してよい内容なのかわからない | | 直接相談してよいかたがわからない | | 誰に相談してよいかわからない | | 専門看護師が何をしてくれらるかわからない | | 自部署以外の人に相談してよいかたがわからない | | 気軽に相談しにくい | | 聞きたいことがまとまらない | | 相談することの利点かわからない | | その他 | | | | | |
|-------|-----|------------------|--------|------------------|--------|----------------|------|----------------------|--------|------------------------|--------|-----------|------|---------------|--------|-----------------|--------|--------|------|-----|------|-----|------|
| | | あり (%) | なし (%) | p値 | あり (%) | なし (%) | p値 | あり (%) | なし (%) | p値 | あり (%) | なし (%) | p値 | あり (%) | なし (%) | p値 | あり (%) | なし (%) | p値 | | | | |
| 全体 | 355 | 60.6 | 39.4 | 336 | 66.4 | 324 | 67.6 | 27.6 | 72.4 | 23.1 | 76.9 | 16.9 | 83.1 | 158 | 84.2 | 149 | 85.1 | 11.8 | 88.2 | 6.2 | 93.8 | 2.5 | 97.5 |
| 内科系病棟 | 129 | 65.1 | 34.9 | 349 | 65.1 | 341 | 65.9 | 35.7 | 64.3 | 23.3 | 76.7 | 23.3 | 76.7 | 14.7 | 85.3 | 124 | 87.6 | 7.0 | 93.0 | 6.2 | 93.8 | 1.6 | 98.4 |
| 外科系病棟 | 226 | 58.0 | 42.0 | 358 | 64.2 | 314 | 68.6 | 23.0 | 77.0 | 23.0 | 77.0 | 13.3 | 86.7 | 164 | 83.6 | 164 | 83.6 | 14.6 | 85.4 | 6.2 | 93.8 | 3.1 | 96.9 |

Fisherの正確率検定を用いた: *p<.05 **p<.01 ***p<.001

表 3 専門看護師へのニーズ

| カテゴリー | n | 患者・家族のアセスメントケア | | チーム医療における医療者間の調整 | | 倫理的問題の調整 | | 医療者を対象とした勉強会の調整 | | 研究に関する相談 | |
|-------|-----|----------------|--------|------------------|--------|----------|------|-----------------|--------|----------|--------|
| | | あり (%) | なし (%) | p値 | あり (%) | なし (%) | p値 | あり (%) | なし (%) | p値 | あり (%) |
| 全体 | 360 | 76.1 | 23.9 | 45.3 | 54.7 | 36.4 | 63.5 | 45.6 | 54.4 | 23.3 | 76.7 |
| 内科系病棟 | 128 | 72.7 | 27.3 | 35.9 | 64.1 | 36.7 | 63.3 | 45.3 | 54.7 | 25.8 | 74.2 |
| 外科系病棟 | 232 | 78.0 | 22.0 | 50.4 | 49.6 | 36.2 | 63.8 | 45.7 | 54.3 | 22.0 | 78.0 |

Fisherの正確率検定を用いた: *p<.05 **p<.01 ***p<.001

示しながら活動し、効果を示すことが重要である」³⁾と述べている。このことから、今後は潜在的な倫理問題の抽出などの積極的な介入を検討し、CNSとしての「倫理調整」役割を明示していく必要があると考える。

VIII. 本研究の限界と今後の課題

本研究は、一施設の内科系・外科系病棟に勤務する看護師が対象であり、他の施設や病棟に勤務する看護師のCNSへのコンサルテーションの実態とニーズについて網羅できていない。更に対象施設に勤務するCNSの分野が限られているため、他の分野のCNSへのニーズについては明らかになっていない可能性がある。

また、対象施設および病棟の規模の違いや特徴によりCNSの活用には差があることが推察され、CNSへのコンサルテーションに関する実態を明らかにするためには、実際の活動に対応した調査の積み重ねが必要である。

IX. 結 論

A病院の内科系病棟看護師140名と外科系病棟看護師243名の回答から、CNSへのコンサルテーションの実態とニーズの特徴が明らかとなった。

1. CNSへのコンサルテーションの経験は、対象全体の約6割に相談経験があったが内科系病棟の看護師は外科系病棟の看護師に比べてCNSの役割の理解不足と相談へのためらいが多かった。今後はCNSの役割の周知と相談しやすいシステム作りが必要と考える。

2. CNSへのニーズは、外科系病棟の看護師は内科系病棟の看護師に比べて、「チーム医療における医療者間の調整」の役割を期待する割合が高かった。より質の高い看護提供のためにはCNSが所属組織の看護師の潜在的ニーズを充足することが必要であり、「倫理調整」役割に関する活動の検討が必要と考える。

謝 辞

本研究の調査にご協力いただきましたA大学附属病院看護師の皆様へ深謝申し上げます。

利益相反開示

本研究において、公的研究費の助成はなく、開示すべき利益相反状態は存在しない。

引用文献

- 1) 日本看護協会：都道府県別専門看護師登録者数。2016, http://nintei.nurse.or.jp/nursing/wp-content/uploads/2016/12/CNS_map-201512.pdf, (2017-10-10)
- 2) 日本看護協会：専門看護師とは。 <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cns> (2017-10-10)

- 3) 奥朋子, 中村伸枝, 大野朋加他：専門看護師・認定看護師の役割に対する看護師のニーズ～高度先進医療を提供する大学病院（一施設）における質問紙調査～. 千葉看護学会誌 15：43-50, 2009
- 4) 黒田裕子, 山田紋子, 津田泰伸：わが国における専門看護師と認定看護師の役割期待認知, 役割遂行認知, 役割遂行能力評価の実態. 北里看護学誌12：1-10, 2010
- 5) 黒田裕子, 山田紋子, 棚橋泰之他：認定看護師と専門看護師が資格を活かして日々実施している業務の実態－自由記載された内容の質的分析－. 北里看護学誌 12：11-17, 2010
- 6) 山田紋子, 黒田裕子, 棚橋泰之他：専門看護師と認定看護師が自己報告した役割を遂行する上での困難さに関する質的分析. 北里看護学誌12：18-29, 2010
- 7) 福地本晴美, 篠木絵理：特定機能病院の看護部門における専門看護師・認定看護師の活用システム. 東京医療保健大学紀要11：15-24, 2016

